

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:http://www.ksvk.jp/
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◇ウィンタースクール開催! 2~3P
それぞれの感想から振り返る

◆グループ型移動支援事業について 4P
障がい者の地域生活を考える「らしくの会」 岩橋 由美子

◇ボランティア物語 87 5P **好評 連載中!!**
『障がい者』宮崎 浩

◆北九州市福祉のまちづくりネットワーク 5P
リレーレポート³⁴
シンボルマークに思うこと
NPO法人北九州自立生活センター 林 芳江

◇MYフレンド 6P
パソコンサポーター 熊本 真由美、工藤 寿美代

◆「ゆく年 くる年 まごころ募金」
ありがとうございました 7P



◇中間支援組織連絡会
研修会に参加しました 7P
事務局 酒井 貴史

◆協会カレンダー 8P



ボランティアの募集です

障害福祉に理解と情熱があり、明るく、企画力、機動力に優れた人材を求めます。

- 人数/臨時職員・嘱託職員 若干名(平成29年4月1日より。事情によっては前後しても可)
- 職種/障害福祉に関する各種事務、事業の企画・運営・推進等
- 待遇/臨時職員:月給8~10万円(通勤手当別)
嘱託職員:本給14~19万円前後(通勤手当別)賞与年2回 各種保険完備
*年齢、経験、資格等により異なる。
- 勤務時間/臨時職員:9時30分~16時30分(週4日勤務)
嘱託職員:9時30分~17時30分までと11時30分~19時30分までの2交代制
(週5日勤務の1日実働7時間)
- 休日/臨時職員:月曜から金曜日のうち1日と土・日曜・祝日
嘱託職員:月曜から土曜のうち1日と日曜・祝日(イベント開催時には休日出勤もあり)
- 勤務場所/ウェルとばた6階(戸畑区汐井町1-6)
- 応募方法/履歴書と作文「応募理由」(400字以内)を事務局に提出(郵送または持参)
- 応募期間/2月15日~2月28日(必着)

*職種や勤務体系等は、面談の際に協議の上で。*書類審査後、面接を行います。面接は追って連絡。

問い合わせ先:北九州市障害福祉ボランティア協会事務局 電話093-882-6770

障害児の長期休暇対策事業

ウィンタースクール開催! それぞれの感想から振り返る

北九州市からの委託事業である障害児の長期休暇対策事業の一環として、今回「ウィンタースクール」を開催した。障害児の放課後デイサービス等の充実により、年々夏季のサマースクールへの参加者は少なくなつてきている。冬季での開催は初めての試みであり、来年度からのこの事業のあり方を再確認するため、こ

で参加者それぞれの感想を振り返ってみようと思う。

まずは、ボランティアの感想を紹介する。

九州国際大学 四年
KRAISH 前代表 前野勇太

12月18日、特別支援学校に通う子どもを対象にウィンタースクールを開催した。保護者やきょうだいの参加も当日は約40名近くの参加者と10名ほどのスタッフが集まった。マジシャン ライヴさんのショーから始まり、レクリエーション、プレゼント渡しと賑やかに会が進んだ。ライヴさんは王道のトランプを使ったマジックから、小さな子どもたちにも分かりやすい輪ゴムを使ったマジックも披露してくれた。また、メンタリストとしても活動しているとのこと、壇上に上がった子に質問していき、思っていることや本人しか知りえない情報を次々に当てていった。

10分休憩を挟んで行った

レクリエーションにも元気いっぱい明るい声が響いていた。ストライクアウトや輪投げ、玉入れやトントン相撲(紙相撲)などがあった。「もう一回する!」とゲームを何回もまわつて来てくれる子どももいて、とてもうれしい気持ちになった。首からはツリー模様の袋をさげており、一回のゲームごとにプレゼントされるシールでいっぱいになったらお菓子をプレゼントした。



会場には、この会のために用意したビッグなクリスマスツリーと折り紙のリース、キラキラのガーランドやフラッグガーランドなどを準備して、スタッフ総出で力を入れて飾り付けをした。子どもたちが思うクリスマス

想像に近づけられるようにと楽しみながら作業した。



最後のプレゼント配布では、九州国際大学の学生2名がサンタクロースとトナカイに変装して、クリスマスツリーをバックに大きな袋からプレゼントを配った。サンタクロースからプレゼントをもらって、「やった!!」と喜ぶ子もいたり、笑顔で静かに喜んでいる子、お母さんと嬉しさを分かち合う子もいたりして、その十人十色な表現を見ていて感動さえ覚えた。

私たちの活動が、少しでも子どもたちの力になって、いることを願うと同時に、これからも一助としてどこかで関わられたら嬉しく思う。

次にゲームを担当した、ちーむ・レク☆さすの感想。

ちーむ・レク☆さす

サマースクールに続いてウィンタースクールのレクリエーションを担当させていただきました。ありがとうございました、ちーむ・レク☆さすです。

当日はクリスマスが目の前という事でボランティアさんが作って下さった壁の飾りやツリーがクリスマスムードを盛り上げ、まるでクリスマスパーティーをしているような雰囲気の中でゲームをしました。

用意したゲームはサマースクールで人気のあったストライクアウトとお手玉入れのほか、輪投げとトントン相撲の4種類です。クリスマスツリー柄のスタンプカードも用意し、各ゲームコーナーでチャレンジして「☆シール」を集め、ツリーの飾りを完成させていく事にしました。子ども



もたちはお気に入りのゲームに何度もチャレンジして、たくさんの☆を集め、ピカピカの豪華なツリーが完成しました！最後はサプライズ！サンタさんからの素敵なプレゼントもありました。今回は参加者も多く、ボランティアさんたちの盛り上げやサポートのおかげで、どのゲームも笑顔や笑い声が溢れ、楽しんでもらっていると感じることができ、嬉しく思いました。

いと思っています。ちーむ・レク☆さすに学びの機会を提供して下さった皆様に感謝です。ありがとうございます。

最後に保護者へのアンケートと、後日、電話やメールで率直な感想を伺った。

保護者へのアンケートでは、85%が満足していた。満足の原因としては、子どもが楽しそうだったとか参加しやすい日時や会場だったことが上がっていた。逆に「どちらかといえは不満」の意見はボランティアの一部が無表情で盛り上げが悪かったとの厳しい意見もあった。アン



ケートでは他になかなか子どもを遊びに連れていけないので良い機会だった、季節ごとに企画をやってくれるといなどの意見もあった。

前半のマジックショーについては賛否両論があった。

○マジックに初めて参加して大変喜んでいました。輪ゴムのマジックもすぐにでき、子どもが喜んでいました。

○教えてもらったマジックを学校でも披露していたそうだが、緊張してうまくできなかつたようです(笑)

○知的障害のある子どもには難しい内容だったと思う。子どもたちに向けてと



いうより大人に向かって公演しているように感じ、こちらが思っていた内容ではなかつたので残念だった。

○言葉での展開よりも視覚で分かる内容や工夫があると良いと思う。

家でもできるようにと意図して行ったマジックが、年齢や障害の程度にもより、楽しめた子と理解が難しかった子がいたようだった。

後半のゲーム遊びは

○子どもが楽しく参加でき、良かったと思う。解りやすい内容で親子で楽しめた。

○たくさん遊ばせていただけで大満足でした。

周りを気にせず、ある程度自由にさせることができ、のびのびして楽しそうだったと概ね好評だった。

この他、会場については、たくさん飾りがあって楽しい会場だった、手書きのカードなど心のこもったものもあり、時間をかけて準備していただきありがとうございます。また、事前の案内にどんなことをするのかももう少し詳しく明記して欲しいとの意見もあった。

障害のある子どもたちが安心して自由にあそぶことができる機会は限られており、できるだけいろいろな経験をさせてあげたいと思う保護者の気持ちを受け止められるよう、長期休暇対策事業を企画していきたい。

**平成29年度実施予定の
グループ型移動支援事業について**
障がい者の地域生活を考える「らしくの会」代表 岩橋 由美子

障害者の余暇に取り組んでいる団体が、ボランティア協会を中心に立ち上がった障害者余暇支援者連絡会では、余暇の充実を求めて定期的に話し合いを重ねています。

そのひとつとして休日利用が重なることでのガイドヘルパー不足の解消と、共通の余暇に参加するグループ全体を支援できるヘルパー利用の

利点を考え、数年前よりグループ型移動支援事業(以後、グループ型)の実施を北九州市に要望してきました。

また各方面からの要望もありこの度、北九州市では現在平成29年度より実施に向けた検討が図られています。

具体的な支援内容としては、すでに実施している他都市の現状や北九州市の事業者へのアンケート結果、関係者からのヒアリングなどを踏まえて検討されているとのこととす。

報酬単価の算定や送迎時の問題など、今後の検討課題がたくさんある中で、まずは実施する方向に向かっていることは障害者の余暇の発展にとつては大変有り難いことだと感謝しています。提案されているヘルパーの人数配置や報酬、利用者の支援経験、事業所の応諾義務を課さないなどは、現時点では手さぐりの状態なので妥当なところかと思われれます。

グループ型事業は、同じ目的で同じ場所で仲間と共に余暇を楽しむことになりますので、グループホーム利用者にはとても利用しやすく、外出の機会が増える大きな一歩となりますし、利用は広がると思います。

しかし、障害者の大多数は在宅ですのでそれぞれがグループ型を利用するには車両型移動支援事業(以後、車両型)との併用を

検討しないと、とても利用しにくい事業です。 集合場所で慣れた支援者

だったら人数が少なくても活動は大丈夫かと思われれますが、移動支援の利用者は療育手帳Aの人が中心ですので、そこに行きつくまでの行程は難しいものがあります。送迎はヘルパーの人数が少ない分、大きな問題点でもありません。保護者の送迎で現地集合?軽度で目的地まで自分で行ける人をグループに入れる?重度の人は個別型で現地までヘルパー送迎を利用し、活動中のみグループ型利用に切り替えるの?などの送迎問題が必ず出てきます。

目的地までは一人で行くても仲間と余暇を楽しむのに支援が必要な療育手帳Bの人にとってグループ型は余暇活動の広がりとなりますが、改善すべき問題点として移動支援を取得しにくい現状もあります。送迎の壁の問題から、やはりグループ型は車両型との併用もできるようなすべき事業だと考えます。

車両型は他都市では特定

の身体障害者に限定されるなど、とても利用しにくい面もありましたが、最近では知的障害者にも適用されるなど、車両型は必要だと考える自治体が増え色々と工夫されており、今回新たに取組む北九州市では、独自のやり方で十分に検討できる事業だと思えます。

目的を同じくする気の合う利用者のマッチングの大変さを思うと個別のヘルパー利用よりは少ないとは思いますが、選択肢が広がるのはとても良いことだと思えます。慣れてくれば、利用は広がるはずとす。

やつと始まる北九州市の新たな取り組みなので、より良いものにするためにまずは大いに利用して、課題の整理をして誰もが使いやすい事業の充実につなげていかなければなりません。そして、そこには3年後の見直し規定を入れて、当事者や関係者参画のもとで検討し、より良いものに見直すべきであると考えます。

広告



**SKC 会計グループ
税理士法人 SKC**

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒806-0011 北九州市八幡西区紅梅二丁目9-16
TEL. 093-645-0129 / FAX. 093-645-0070
<http://www.skc-tax.or.jp/>

株式会社さかい経営センター 株式会社SKC計算センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州
(岩本英俊行政書士事務所)

宮崎浩さんは、当ボランティア協会の理事です。
このコラムは、宮崎さんの体験を通した思いをつづったものです。

ボランティア物語

-87-

障がい者

宮崎 浩

東京でチャイルドラインの会議に出た時のこと。

「子供の供という漢字は、大人のお供みたいで、差別用語みたいなものよ」と、どこかのおば様が言った。

都会の流行に弱い僕は、まことに純粹培養されて、それ以来、「子供」とは書けず、「子ども」と書いている。

しかし、政府では、国語を重視し、公用文中の表記を「子供」と統一している。小学生は「子供」と習う。

つまりは、「子供」でも「子ども」でも、統一されてはなく、こだわる必要はない。

「ども」とは、複数を表す接尾語で「野郎ども」等と使われる。むしろ平仮名の方が侮辱感が強いようだ。

また、最近では「障がい者」という表記もよく目にする。

この表記について、いろいろ論議されているようだ。

「害」という漢字は、公害や害虫みたいに、あたかも障害者が、社会に危害を与える存在かのような否定的な印象を抱かせるといいます。

「障がい者」と平仮名を使うと、かえって障害者自身の属性に焦点が当たってしまうないだろうか。

怖いのは、右に習えと、にわかに「障がい者」と使い始める群集心理。

「理解者ぶり」しても差別的な感情をひそめていようと、いつか必ず爆発してしまふ。

文字をいじるだけでは、何も変わらない。

実は「害」より「障」の漢字の方が気になっている。「障」は、「さわる」、「差しさわる」という意味。

例えば、「障らぬ神に崇りなし」と使われる。

むしろ「害」よりも「障」の漢字の方が瘡(しゃく)に障る。

北九州市福祉のまちづくりネットワーク

(リレーレポート③)

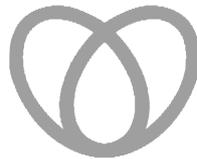
シンボルマークに思いつくこと

NPO法人北九州自立生活センター

林 芳江

バリアフリー法シンボルマークを掲げた建物が随分と増えました。喜ばしい半面で、気がかりなことも増えています。

バリアフリー法シンボルマークはハートビルのマークと表現したほうがピンと来るかと思いますが、バリアフリー法に基づく認定建築物の入口等に掲示するプレートマークです。



市内に現在幾つの建物が認定を取っているのか調べてみましたが、簡単にはその情報に行きつきませんでした。

車いす使用者の私にとつて、やはり多目的トイレは不可欠で、数は増えています

が、大人用ベッドもオストメイト設備も両方備えた言わ



ばフルスペックの多目的トイレはなかなかありません。高齢者や認知症の異性介護の方も含めてユーザー層が増えていきますので、フルスペックの機能詰込み型よりも、機能分散が望ましいといえます。でも気がかりなのは大人用ベッドが増えています。それどころか、経年共に撤去される事例さえあります。トイレの機能はどうであれ設置することで実質化されてしまうのは困ります。各々の場所で利用者のニーズに応じたトイレを設置してもらおうには、どうしたものかと考え込んでいるこの頃です。

広告



医療法人 しょうわ会

もうすぐ1周年
H28年4月開設

正和なみき病院
通所リハ

ラ・フォンテーヌ

TEL (093) 616-1750

医療部門

整形外科を中心とした救急・急性期病院

正和中央病院

TEL (093) 602-1151

運動器・脳血管疾患の回復期リハビリテーション病院

正和なみき病院

TEL (093) 644-0756

介護部門

訪問リハビリテーション

居宅介護支援事業所 フォレスト ケアマネステーション

TEL (093) 644-0774

TEL (093) 622-0180



ーパソコンサポーター事業のコーディネーターの熊本さんと工藤さん。まずきっかけをー

熊本／二〇一〇年養成講座を受講し登録しました。パソコンはPTAの会報作成や趣味で使用していました。養護学校(現在の特別支援学校)に勤務したことがあり、好きなパソコンで、障害のある人のために何か役に立つたらいと思いました。

工藤／六年前に養成講座を受講しました。長年パソコンを使って仕事をしていたので、経験と好きなことを生かしたいと思いました。

ー大変だったエピソードはー
熊本／最初に関わった入院中の重度身体障害者の方です。この方は、意思伝達装置としてパソコンを使ってい

たので、サポート前に操作を試すことができませんでした。初めは看護師に意思を伝えたり音楽を楽しむ程度に使ったりしていました。が、段々積極的になり、主治医や同じ病気の仲間にもメールを送ったり気持ちを伝えたりするようになってきました。病と闘いながらも自分で生き方を選択し、まわりの人とコミュニケーションを取って繋がっていくこと。

折に触れ思い出しパソコンサポーターを続ける上での心の支えになっています。

工藤／初めて視覚障害の方を支援した時、モニターが壊れていて画面が真っ黒でした。音声読み上げはスピードが速く聞き取れな



右／工藤 寿美代さん
左／熊本 真由美さん

パソコンサポーター養成講座を陰で支えています

つたので、依頼者に聞きながら作業をしたことです。障害種別、また同じ障害でも人それぞれ使える機能が異なるので、一から一緒に勉強するとう感じます。ー楽しかったことはー
熊本／高齢者を支援した時、入力に慣れた後二緒に家計簿作りに取り組んだことです。日常生活に役立てられていることがうれしです。

工藤／依頼者が自分なりに工夫して「楽しんで操作できる」やり方を見つけ教えて下さり、その方法を他の障害のある方にお伝えすることで、毎回できることが増え喜んでいるらしい姿が励みです。

ー今後の取り組みはー
熊本／この事業を知らない人が多いです。高齢化に伴い中途障害も増えるので、まず知ってもらいたいと思います。ボラ協内のパソコンサポーター事務局にお電話下さい。

工藤／パソコンからタブレットに移りつつあり勉強しないといけないと思います。流れに追いつくのが大変です。

ー最後に趣味をー
熊本／小説やエッセイを読むことと美術鑑賞です。毎年一回京都に行き寺社の庭園や仏像、工芸品を見てまわります。

工藤／推理小説を読むことです。松本清張と横山秀雄が好きです。他にお菓子や料理も好きです。祖父がお菓子作りの職人なので、そのDNAを受け継いでいるのかもしれないね。

* * *
聞き手 森山 幸恵

広告

加藤法律会計事務所

弁護士 加藤 哲 夫
公認会計士

〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町二丁目1番1号 小倉鍛冶町ビル8階
電話 (093) 533-5877 FAX (093) 533-5977

「ゆく年 くる年 ままごろ募金」
ありがとうございました

赤崎 雅仁	伊高 幸江	今村 修	今村 浩司
岩本 幸子	牛島実基子	江藤みどり	大熊恵美子
大友 征子	大西 京子	大曲千代子	岡崎美智子
尾形八重子	越智 孝	越智 美和	栗山 高子
鹿子嶋初美	蔵内 綾子	香田 小茅	小林 芳子
定野 陽一	志賀 幸則	島 友之	自見 紀子
柴田 泰博	田代 昌資	谷 喜代子	谷 良三
辻村 文子	友松 剛	豊田 力	中島 英恵
中園 和子	中原 祐子	中村紀美子	中村 昭寿
西村 邦子	服部 栄子	日隈あけみ	増田 恭一
松本 健司	松本 幸代	丸山 正恵	宮崎 育恵
村上 敬子	村瀬喜美代	安森キミ子	吉本 茂行

（南コア） NPO法人いこい広場DAN DAN
 社会福祉法人西日本至福会 障害者支援施設ちづる園
 北九州LD等発達障害親の会「すばる」
 北九州LD等発達障害親の会「すばる」
 他匿名5名（敬称略）

年末から実施の「ゆく年 くる年 ままごろ募金」にたくさんのご寄付をいただきました。会員をはじめ多くの皆様ボランティア協会を支えてくださっていることに心より感謝申し上げます。皆様のお気持ちを大切に、障害のある人もない人の中、役割を果たしていくために使わせていただきます。ご支援ありがとうございました。

ご寄付総額
274,700円
(2月1日現在)

中間支援組織連絡会
研修会に参加しました

昨年の12月12日に開催された、コーディネーター研修会に参加しました。研修会には、ボランティアに関わる団体から20名ほどが参加しました。前半は、九州大学大学院客員教授の加留部貴行先生の講演で、人と人とのつながりや連携についての話がありました。現代はコミュニケーションが薄いという事、例えば、皆さんは近所の人とどの位コミュニケーションが取れていますか？簡単な挨拶をする位でその人についてはあまり知らないという人は多いと思います。以前のよう、近所の人と立ち話をしていたり、気軽に家に訪ねてきたりはあまり見かけなくなっていると思います。そんなことから、最近よく「地域づくりをしましょう」という言葉を聞きます。加留部先生によれば、地域を作るには、知識の

「知」に領域の「域」という字の「知域」すなわち、知っている領域を広げることが大切になる。また、話をしている中で、深くはしていない人と話することも大切だと言われていました。現代はネットワークの発達により多くの人と繋がる事が出来ますが、面と向かって話さなければわからない事は多くあります。対話することの大切さを今一度見直さなくてはならないと思いました。

後半は、4人の参加者からコーディネーターについての悩みを一つずつ出してもらい、4チームに分かれてワークショップを行いました。私は「ボランティアは何でもしてくれと思われ悩んでいる」という方のチームに参加しました。普段会わない人たちが集まることで、たくさんの意見が出てとても白熱した時間になりました。またこのような機会があったらぜひ参加して色々な人の考えを聞きたいと思いました。

(酒井 貴史)

広告

解体と土木工事の
株式会社 大山組



〒802-0033 北九州市小倉北区富野台1-1
TEL 093-551-5900 FAX 093-551-0867

《E-mail》
ooyamagumi802551@train.ocn.ne.jp

ご協力ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

大串 信義 古賀由美子 長岡設備

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

鶴池 皓代 公文真理亜 坂本 一晴 西村 邦子

森山 幸恵 (株)遠藤商会 鹿島道路(株) 創造館 想

(株)ジェイコム九州北九州局 新ケミカル商事(株)

(株)西日本電波研究所 明治学園中等部

永犬丸市民センター 北九州市役所有志一同

夜宮青少年センター 八幡西区役所保護課

北九州市難聴者・中途失聴者協会

北九州市障害者基幹相談支援センター

北九州市精神保健福祉センター

メール登録者について

ボランティア活動情報やイベント・研修等の情報提供を電子メールで受信していただいているボランティア登録者の皆さまへ【ボランティア活動保険】の更新(H29.3.31で満期)と、次年度の継続更新をお願いします。

この機会に登録から正会員に変更していただく方も大歓迎ですが、新たな登録会員も同時に募集します。



ボラ協の最新情報は、ホームページやフェイスブックも随時更新しているので、ご覧ください!

登録希望の方、お問い合わせは事務局 XLZ02133@nifty.ne.jp まで

協会カレンダー

2月

2日(木) 第14回障害者パソコンサポーター養成講座開講式(全9回)

第16回障害者の余暇支援者連絡会

3日(金) 北九州市差別解消法推進事業講演会に参加

4日(土) みんなの研修会

車椅子バスケットボールお久しぶり会

8日(水) 北九州市防災会議(古賀・榎)

9日(木) ボランティア市民活動センター正副委員長会議(竹田)

15日(水) 会報209号発行

20日(月) 北九州福祉のまちづくりネットワーク点検活動

(ミクニワールドスタジアム北九州周辺)

21日(火) 北九州市障害者自立支援協議会総会(古賀)

22日(水) 北九州市障害者差別解消条例に関する有識者会議(古賀)

23日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

ボランティア市民活動センター運営委員会(竹田)

3月

1日(水) 「ひこうせん未来」第78号発行

4日(土) 第14回障害者パソコンサポーター養成講座閉講式

8日(水) 常任委員会

15日(水) 北九州福祉のまちづくりネットワーク定例会

23日(木) 障害福祉団体連絡協議会常任委員会

28日(火) 定例理事会

4月

15日(土) 会報210号発行

22日(土) 九州リハビリテーション大学校記念館開館記念式(岡田)

